

## 映像でメッセージを編集・構成しよう

### 構成

1. 概要
2. 単元計画
3. 本時のための準備
4. 本時の流れ
5. メディアリテラシー育成のためのポイント
6. 授業レポート
7. 先生の一言 ～授業を終えて～
8. 私もやってみました！
9. 監修者の一言

### 1. 概要

実施校	千代田区立九段中等教育学校
実践者	田崎文晴 教諭
教科	中学3年生 技術・家庭科（技術分野）
単元	D 情報に関する技術 （2） デジタル作品の設計・制作 ア メディアの特徴と利用方法
メディアリテラシーに関わる部分の授業時間数	50分

### 2. 単元計画

1 時間目	映像制作導入 映像のメディアとしての性質について知る 要点：映像は制作意図（メッセージ）に沿って、撮影・編集・構成される。 ※本時はこの先に控える動画の撮影・編集の前段として位置付け
2 時間目	撮影する映像のテーマを設定する 要点：視聴者に伝えたいことを考えよう。
3～4 時間目	シナリオと絵コンテを作成する 要点：どのような場面を撮影・編集すれば伝えたいことが伝わるだろうか。
5 時間目	撮影する 要点：絵コンテを参考に撮影する。より伝わる表現があれば変更してよい。
6 時間目	編集する 要点：絵コンテを参考に編集する。
7 時間目	映像の上映会をする 要点：テーマと編集内容の整合性はとれているか。

本時

### 3. 本時のための準備



#### 映像教材

- (1) ニュースの公園の場面のみを書き出した映像
- (2) ニュースで使用する教授インタビュー全文の映像
- (3) 肯定、否定、中立の立場でまとめられたニュース映像3種類



#### テキスト教材

- (1) 教授インタビューの内容を文字で起こしたプリント（別紙1）

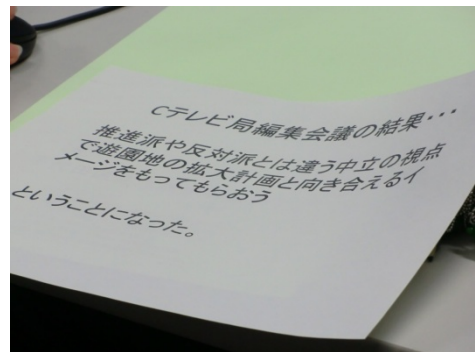
- (2) 制作意図指示プリント

…肯定、否定、中立の3種類、下記の文言が書いてある。  
展開のはじめに、班ごとにいずれか1種類を配布。

(a) 肯定「遊園地の拡大が進んで、公園が発展するようなイメージをもってもらおう」

(b) 否定「遊園地の拡大計画で自然が壊されてしまうかもしれないというイメージをもってもらおう」

(c) 中立「推進派や反対派とは違う中立の視点で遊園地の拡大計画と向き合えるイメージをもってもらおう」



#### ワークシート

- (1) 映像編集ワークシート（別紙2）

- ・制作意図…制作意図指示プリントから写す
- ・作った文脈…公園のシーンのテキストはあらかじめ記載しておき、生徒は続きの部分に入力する。各班で話し合い、教授インタビューのテキスト教材から制作意図に沿った部分を抜き出して貼り付ける
- ・インタビューの一部分は制作意図に沿っていると思う理由……班で考えて入力する

## 4. 本時の流れ

### 本時の目標

教科指導

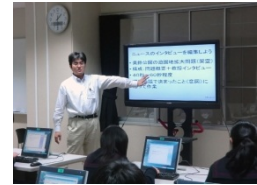
美鈴公園の再開発問題を伝える立場で、意図に沿って編集できる。  
(技術 (情報分野))

メディア

- ・映像は発信者の意図(「この情報を伝えたい」という気持ち、メッセージ)に沿って編集や構成がなされていることを学ぶ。
- ・生徒自ら美鈴公園の再開発問題を伝えるニュースとインタビュー全文を文字起こしたものを編集することにより、「編集という行為はメッセージをつくることそのものである」ということを理解する(4人1班のグループで活動。教師はグループごとに対して指導する)。

#### 1. 映像のメディアとしての性質について理解する (5分)

…映像は制作者の意図に沿って撮影、編集、構成されていることを知る



#### 2. インタビュー原稿を制作意図に沿って編集する (35分)

…映像教材「美鈴公園遊園地拡大問題」の問題の概要を伝えるニュース映像と、大学教授のインタビュー映像を視聴する

授業の山場は  
7ページ

#### 3. 制作意図ごとに、編集したニュースを共有する (10分)

…制作意図に沿って編集された大学教授インタビュー入りのニュース映像を視聴し、制作意図に沿って編集することで、同じニュースでも伝わり方が違ってくるということを理解する

教科指導

教科指導の観点

メディア

メディアリテラシー教育の観点

## 5. メディアリテラシー育成のためのポイント

### ポイント 現場の設備環境に応じてアレンジが可能

各校において映像機器の設備環境には違いがあります。プロジェクターでのスクリーン投影ができない場合は、どの学校にもあるパソコンで動画の再生を行うといいでしょう。また、今回の授業ではテキストレベルで編集作業を行いました。特別な機材を使わずに映像そのものを編集することも可能です。デジタルカメラで撮影した軽いデータであれば、パソコンの動画編集機能を使って作業をすることができます。

### ポイント 映像作品制作へのステップとなる

ニュースを題材とした編集作業を通して、生徒は情報を発信する側の立場を体験します。「映像は制作意図に沿って編集・構成される」という映像のメディアとしての特性を理解させ、今後の授業で学ぶ映像制作へのステップとすることができます。

### ポイント 主体的に考える姿勢を育成

ただ教師が指示を出して教えるだけでなく、この映像の流れでどのようなことが伝わるだろう、などと質問し、生徒の意見を引き出すことで、メディアリテラシーの重要な要素である「主体的に考える姿勢」が育成できます。

## 6. 授業レポート

### 1. 映像のメディアとしての性質について理解する（導入 5分）

班ごとに分かれて着席。

教科書を開き、映像制作をするために必要な手順を確認する。

—— 「映像は制作者の意図に沿って撮影、編集、構成される」と提示。

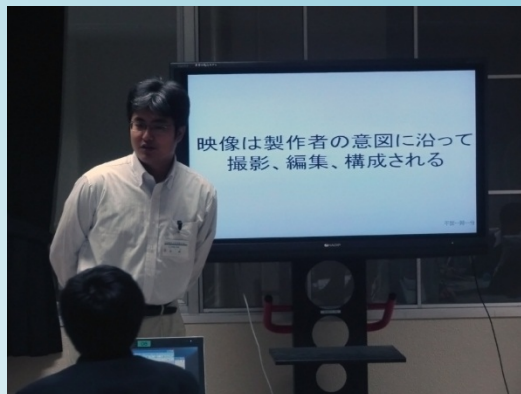
これは映像作品をつくる際に踏まえておくべき重要な点で、映像のメディアとしての性質を表しています。意図とは、作り手が映像を通して伝えたいことです。では、意図を持って撮影するというのとはどういうことなのでしょう。

— カメラで教室の様子を撮影しながら、その映像を映す。

今、教室全体の様子が映っていますか？ 映っていませんよね。カメラはレンズを向けた方向にあるものしかとることができません。つまり映像の制作者は、伝えたいことが視聴者に伝わるように、撮影現場の中から一部分を選んで撮影しているんです。この選ぶという行為のもとになるのが制作意図です。このことから、撮影という段階ですでに制作者の意図が入っていることがわかります。

撮影が終わると、撮影した映像の中から必要なシーンを切り取り、それをつなげる編集・構成作業を行います。この作業の目的は、制作者の意図をよりわかりやすく視聴者に伝えるために文脈をつくることです。

今日は映像の制作意図に沿って文脈をつくり、それによって視聴者への伝わりがどれだけ違うのかを確認してみましょう。



#### ● 指導教諭のポイントアドバイス

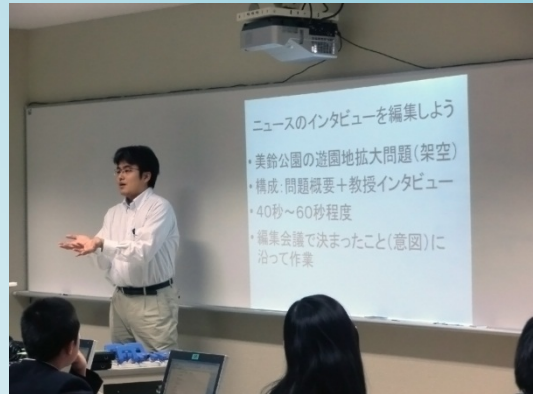
メディア

映像設計や制作に入る前のステップとして、映像のメディアとしての性質について押さえましょう。

## 2. インタビュー原稿を制作意図に沿って編集する（展開 35 分）

— カメラで教室の様子を撮影しながら、その映像を映す。

今日の題材は「美鈴公園の遊園地拡大問題」という架空のニュースです。問題の概要をお知らせした後に、大学の教授からいただいた意見を加えて 40 秒から 60 秒程度のニュースにまとめ、視聴者のみなさんによりわかりやすく伝えたいと思います。与えられた時間の枠でどのような文脈をつくれればよいかを考えてください。まずはニュースの映像を見てみましょう。



— 問題の概要を伝えるニュース映像（24 秒）を視聴。

次に、大学教授のインタビューを流します。

— 教授インタビュー全文の映像（1 分 28 秒）を視聴。

みなさんにやってもらいたいのは、はじめに見た映像の後につなげる教授インタビューの一部を引用し、ニュースとしてまとめる作業です。

— メッセージ指示の入った封筒を班ごとに配布（3 パターンをランダムに封入）。

今、班ごとにテレビ局の編集会議で決まったことが書いてあるプリントを配りました。各班で話し合い、そのテレビ局の編集意図に沿ってニュースを完成させてください。

— 教授インタビューを文字起こしたものと提出用ワークシートの場所を指示。

今回はテキストを編集してニュースをつくりましょう。教授の意見には文章ごとに 1 から 11 まで番号が振ってあります。1 から 3 までを採用するというように、連続した固まりで抜き出すのがルールです。ワークシートは、文字を入力したりインタビューの文章を貼り付ければ完成できますので、できたら先生に見せてください。では、作業を始めてください。



生徒たちが活発に話し合中、先生は各班を回り、意図に沿ったインタビューの編集ができていかどうかをチェック。

— ワークシートの提出先などを提示。できた班から提出する。

ワークシート「意図に沿った編集をしよう」  
年 級 第 1 期 (第 1 学年) 発表

編集会議で決まった制作意図

原稿の文章  
ニュース原稿シナリオ (この文章は編集しないこと)  
資料の中の言葉、資料公開には、小さな遊園地と動物園があり、実際に大人気です。いまでは、遊園地の利用客を増加させよう。両りの土地をロープウェイをつなぐ計画が持ち上がっています。しかし、これに反対する住民や自然保護団体も多く、計画は継続していません。

+

美鈴大学経済学教授 西村和雄先生のコメント  
(この欄に、制作意図に沿っていると著者コメントを記入してください)

インタビューの一部は制作意図に沿っていると著者コメント (目で見て大判)

完成したら、チェックを受けましょう。

## ●指導教諭のポイントアドバイス

### メディア

・ニュースに登場する人の気持ちに関係なく、あくまでも番組として伝えたいことがニュースに乗せるメッセージであるということを念頭におかせましょう。

### 教科指導

- ・机を回って生徒の活動を観察し、意図に沿ったインタビューの切り取りができていのかどうかをチェックしましょう。
- ・生徒のアウトプットは必ず評価しましょう。ただし、主張が複数入るとメッセージがぼやけてしまうので、多く抜き出そうとする生徒には最もあてはまる部分を選ぶようにうながすとよいでしょう。
- ・生徒のペースを見ながらヒントを出し、すべての班が正解にたどりつけるようサポートしましょう。
- ・早くできた班には、映像素材で実際にニュースを編集して提出するよう指示するとよいでしょう。これは時間内にできなくても構いません。

授業の山場！

### 3. 制作意図ごとに、編集したニュースを共有する（まとめ10分）

テレビ局の編集意図とみなさんのつくった文脈が合っているかどうか、各班の答えを紹介しながら、各テレビ局が制作した正解の映像を見ていきましょう。

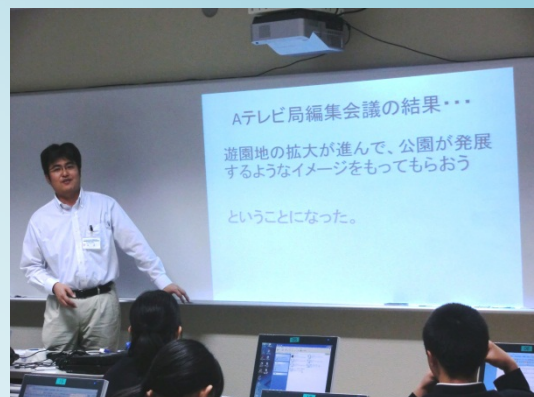
— 提出されたワークシートを肯定（Aテレビ局）、否定（Bテレビ局）、中立（Cテレビ局）のグループに分け、順次提示する。

Aテレビ局の意図は、「遊園地の拡大が進んで、公園が発展するようなイメージをもってもらおう」という肯定的なものです。例として7班を紹介すると、教授のインタビューから遊園地構想を推進する意見だけを抜き出しています。肯定的なイメージになっていますね。映像で見てください。

— 肯定的な意見のインタビューを使ったニュース映像を視聴。

どうでしょう。遊園地の拡大計画を推進しようという気持ちになりますか？

Bテレビ局は、「遊園地の拡大計画で自然が壊されてしまうかもしれないというイメージをもってもらおう」という否定的な意図でニュースを編集しました。



10班の答えを見ると、教授の意見の中から自然を壊してまで遊園地を拡大する必要はないという部分を切り取っています。否定的な文脈がつくれていますね。映像はこうなります。

#### — 否定的な意見のインタビューを使ったニュース映像を視聴。

意図と合致していることがわかりますね。

Cテレビ局は、「推進派や反対派とは違う中立の視点で遊園地の拡大計画と向き合えるイメージを持ってもらおう」という意図を打ち出しました。5班が教授インタビューから選んだのは、肯定的でも否定的でもない中立の意見です。文脈と意図が一致していますよね。映像で見るとこうなります。

#### — 中立の意見のインタビューを使ったニュース映像を視聴。

いかがでしょうか。5班と同じ部分を使っていることがわかりますね。

このように、同じ人のインタビューであっても、制作意図に沿って切り取ることで視聴者に伝わる内容は変わってきます。ですから、映像を制作する時には「何を伝えたいのか」という制作意図を明確にし、その意図に沿って撮影、編集することが大切です。映像が完成したら、伝えたいことが伝わる文脈になっているかどうかの確認も必要ですね。次回から取り組む映像制作では、今日学んだことを踏まえ、「伝えたいこと」を考えることから始めましょう。

### ● 指導教諭のポイントアドバイス

メディア

最後に完成したニュース映像を見せて自分たちの考えた文脈との比較を行い、「どこまで正解に近づけたのか」ということを確認させ、理解を深めるようにしましょう。



## 映像制作の導入として ニュースを題材に 制作意図に沿った インタビュー原稿編集を実施

**今** 日の授業の子どもたちの様子はどうでしたか。

### ◆知らなかったことへの気づき生まれた

生徒の反応から、ニュースが制作者の意図によって編集されているということについては、あまり認識していないのだと感じました。意図があるということをマイナスにとらえて「汚ないなあ」と言っている子もいましたが、それはニュースが事実をありのままに語るものだと信じているからこそ生まれてくるコメントですよ。でも、制作者の意図が明確でなければ見る人に伝わるニュースにはなりません。今日の授業で、それに少し気づくことができたのではないかと思います。

**授** 業で工夫されたことは何ですか。

### ◆インタビュー原稿を活用して映像編集を体験させる

限られた授業時間内に映像を編集することは難しいですが、生徒に「編集した」という達成感を味わってほしかったので、文字に起こしたインタビューの内容から必要な部分を抜き出し、文脈をつくるという方法を取り入れました。

### ◆机間巡回指導でグループワークを活性化

グループワークでは各班を回り、議論の進展をうながし、良い点、悪い点を考えさせる評価やヒント、アドバイスなどを与えて生徒自身に考えさせ、すべての班が正解にたどりつけるような指導を心がけました。また、見るべき資料やワークシートの提出先などは明確に指示し、短い時間で効率よく作業を進められるようにしました。

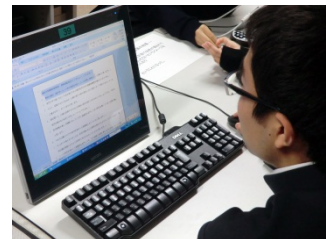
### ◆完成したニュース映像と生徒がつくった文脈を比較しながら確認する

まとめでは、生徒たちの考えたインタビューの文脈を提示したあとに完成したニュース映像を流し、両者を照らし合わせて自分たちがどこまで正解に近づけたのかを確認させました。ここで「制作意図に沿って編集することで同じニュースでも伝わり方が違ってくる」ということを認識させ、強く印象付けることができたと思います。



田崎丈晴 教諭

(千代田区立  
九段中等教育学校)



# も

っと時間をかけて授業ができる場合、どんなことを実施すればよいですか。

## ◆実際に撮影した映像を編集させる

今回のように、あらかじめ用意したインタビュー原稿から必要な部分を選ぶという形式ではなく、校内のニュースを作成させるといった小さな課題を与え、実際に取材を行い、その映像をもとに文脈づくりをするとよいでしょう。

## ◆プロジェクト形式の映像制作に発展させる

映像は一面的な事実を切り取っているにすぎないということを理解させるには「見ただけで伝えたいことがわかるような写真を撮る」という課題を与えてもよいですね。また、絵コンテを書かせて「制作意図に沿った文脈づくりができているか」「それにより自分たちのメッセージを効果的に伝えることができるか」という計画を立てさせるのもよいでしょう。

# こ

の授業を実施してよかったですか。よかった点について教えてください。

## ◆40分で編集について理解させることができた

コンパクトに授業をまとめ、進行管理をしっかり行えば、40分で編集には意図があるということを理解させることが可能だとわかったことですね。

## ◆生徒が自分の意見を持ち、主体的に考えていた

グループワークでは、課題として与えられたテレビ局の編集意図をこなすのではなく「自分はこう伝えたい」という意見も聞かれました。今回の課題からは論点がズレてしまっていますが、今後、映像制作の課題に取り組む際には、メッセージを発信する立場として自分の意見を持つことが求められますから、その意味ではよかったと思います。



## 8. 私もやってみました！

# 作業の効率化や 机間指導の徹底で 時間内に生徒の解答を引き出す 工夫も大事

これまでメディアリテラシー教育に  
どのようなイメージをお持ちでしたか？

メディアリテラシーの授業を行うにはそれなりの設備が必要なので、これまでほとんどやったことはありませんでした。今回、自分が実際に指導することになり、正直なところ不安でしたね。

**授** 業を始める前に不安なことはありましたか？

### ◆機材の状況が授業運びに影響

50分という授業時間内に納めることと、機材のトラブルが不安でした。実際に1回目の授業では機材が止まってしまい、動画がなかなか見せられなかったので、そういった機材の状況も授業がスムーズに運べるかどうかに影響してくると思います。

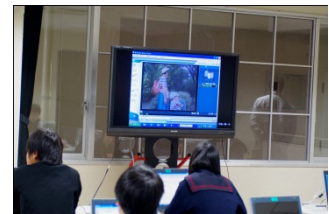
**今** 日の授業の子どもたちの様子はどうでしたか。

### ◆初めてのグループワークにもしっかりと取り組んでいた

技術の授業では班活動をするのが今回初めてだったので、生徒たちがうまく話し合いを進めていけるのか心配でしたが、予想以上にスムーズにできていたのでホッとしました。



蜂屋恵子 非常勤講師  
(千代田区立  
九段中等教育学校)



## ●ここを工夫しました！

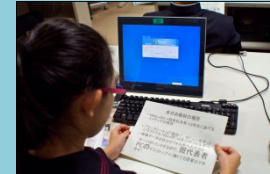
### 1. 映像のメディアとしての性質について理解する (5分)



### 2. インタビュー原稿を制作意図に沿って編集する (35分)

…作業を効率化し、授業時間にゆとりをもたせる

授業時間内に納めるのが難しそうだったので、必要なファイルを開くといったパソコン上での作業については順番を変更し、教材の場所やワークシートの提出先は紙にプリントして配布するといった工夫をして、作業の効率化を図りました。



### 3. 制作意図ごとに、編集したニュースを共有する (10分)

…時間内に答えを導くため、机間巡回指導を徹底

グループワークでは机間巡回指導を徹底し、グループ全員で取り組んでいるか、ルールに沿って進めているか、ニュースを1分以内に編集できているか、意見を集約できているかなどのチェックを行って生徒に気づきを与え、時間内に答えが出せるようながしました。また、パソコン操作が苦手な生徒にはフォローが必要なため、その点も気に留めて回るようにしました。



## 「メディアリテラシーかなりよくわかる期」での本実践の意義

メディア

昭和女子大学 初等教育学科  
駒谷真美 准教授

本実践の対象は、青年期前期に属する中学生です。メディアリテラシーの発達段階では、かなりよくわかる期（基礎的理解確立・批判的概念定着期）に該当します。顕著な特徴は、アダルトディスカウント（主体的かつ批判的な読み解きが可能になる。大人のように思考し始め、メディアの世界についてより懐疑的になる）を確立しつつあることです。この時期の生徒は、複数のメディアを並行し使いこなします。趣味や音楽、ゲームなどの「個人的な娯楽」を楽しむと共に、友だちとの「コミュニケーション・ツール」として、メディアを積極的に活用するのです。ネットを介したコミュニケーション（CMC: Computer-Mediated Communication）が増加するので\*、メディアの受け手から使い手・作り手・送り手へ立場が無意識的に変化していきます。

このような特徴を踏まえたメディアリテラシー教育の到達目標として、「①テキストにより、異なるメディアの文法を識別し分析できる ②テキストの計画や制作における様々な取り組み・段階・選択の概要をまとめることで、メディア作品を説明できる ③様々な情報を含むテキストの効果を評価できる ④技術的に複雑なメディア作品を作ることができる」ことが挙げられます\*\*、\*\*\*。本実践では、単元『情報に関する技術 (2) デジタル作品の設計・制作』で、架空のニュースを紹介した教材『美鈴公園遊園地拡大問題』を取り上げ、メディアの特性を知った上で(①)、送り手の意図を見極め(②・③)、その観点を映像制作に活かし発表することで(④)、メディアの受け手から使い手・作り手・送り手までの一連の流れを全て意識的に体験することになります。よって、本実践において、かなりよくわかる期の生徒のメディアリテラシーは、「メディアは『現実』を構成する」というメディアリテラシーの最も重要な基本概念を獲得し、青年期中盤に向けて、成人期のメディアリテラシーへのレディネスが蓄積されると考えられます。

\* 駒谷真美. (2012). 「第10章 メディア社会、ネット世代の人間関係と若者文化」.

日本発達心理学会(編)『発達科学ハンドブック5 社会・文化に生きる人間』東京:新曜社. pp. 124-134.

\*\* Ontario Media Literacy. (2006). Retrieved March, 15, 2006, from

<http://www.angelfire.com/ms/MediaLiteracy/>.

\*\*\* Ontario Ministry of Education. (2006). Retrieved March, 15, 2006, from

<http://www.edu.gov.on.ca/eng/document/policy/achievement/charts1to12.pdf>.

(美鈴大学環境学部教授 西林昭隆先生のインタビュー、1分28秒)

1. 美鈴公園は、緑が多いという市の特性を活かしている非常に素晴らしい公園だと思います。
2. 自然の中で遊べるという点を活かすなら是非自然の中の遊園地構想は進めるべきですね。
3. ただし、拡張するのであれば、公園の周りの林や森をいかに伐採しなくて済むのかということに重点をおく、おくべきだと思います。
4. 話を聞くと、公園を拡張するためには美鈴の森を伐採しなければいけないようですし、今ある自然を壊さなければいけないということですよ。
5. 自然破壊が進んで問題になっている今、遊園地を拡大してまで自然を壊してしまう必要は無いと思います。
6. 今ある公園だけで十分自然を活かした遊園地になっていると思います。
7. やっぱり今考えるべきことは、自然が壊れるとか特性を活かすとかそういうことではなく、美鈴公園が地域にどのような存在であるのかということだと思います。
8. いくら特性を活かして遊園地を拡大しても、その地域の住民が使えなければ決していい公園、になるとは言えません。
9. まずは市民にとって公園がどんな存在であるのか調査をして、データを得ることが先決ですね。
10. 公園が市民にとってどんな存在か、計画者は知らなくてはいけないんですよ。現状を把握することが大切ですね。

## ワークシート「意図に沿った編集を体験しよう」

年 組 班（班のメンバー氏名 )

編集会議で決まった制作意図  
(制作意図指示プリントから写す)

班の文脈案

ニュース冒頭シーン（この文章は編集しないこと）

自然の中の公園、美鈴公園には、小さな遊園地と動物園があり、市民に大人気です。いま市では、遊園地の利用数を増加させようと、周りの土地50ヘクタールをつぶす計画が持ち上がっています。しかし、これに反対する住民や自然保護団体も多く、計画は難航しています。

+

美鈴大学環境学部教授 西林昭隆先生のコメント

(この枠に、制作意図に沿っていると思う部分をはりつける)

インタビューの一部分は制作意図に沿っていると思う理由（班で考えて入力）

完成したら、チェックを受けましょう。